

宮古地区

高齢化率22.49%

今年の新100歳は21人

宮古福祉保健所は15日の「老人の日」を前に11日、宮古地区の高齢者状況を発表した。今年3月末現在の宮古島市と多良間村を合わせた65歳以上の高齢者数は1万2699人。総人口に占める割合は22.49%で「超高齢社会」となり、県内5圏域で最も高い。今年度の新100歳は男性2人、女性19人の計21人。最高齢者は105歳の女性。15日から21日まででは老人週間。県は、高齢者の社会参加や人権尊重を促進する。

15日は「老人の日」

高齢化率を地区別に
▽城辺34.08%▽下地 28.74%▽上野22.97%
▽伊良部30.78%
▽宮古島市全体では
25.24%
▽宮古地区の高齢者1万2699人のうち、介護を必要としている人は689人で5.4%。一人で暮らしている人は3282人で25.84%となっている。

今年15日時点の100歳以上の高齢者は男性4人、女性37人の計41人。100歳以上の長寿者数は2005年からの5年間で最も多い。宮全体の高齢者数は

は689人で5.4%。一人で暮らしている人は3282人で25.84%となっている。

	2008年度末現在			
	総人口	高齢者人口(65歳以上)	高齢化率	ひとり暮らし老人数
宮古島市	55,130	12,361	22.42%	3,202
平良地区	35,600	6,431	18.06%	1,711
城辺地区	7,055	2,404	34.08%	575
下地地区	3,257	936	28.74%	276
上野地区	3,169	728	22.97%	152
伊良部地区	6,049	1,862	30.78%	488
多良間村	1,339	338	25.24%	80
宮古全域計	56,469	12,699	22.49%	3,282

23万4528人で、高齢化率16.7%(昨年10月1日現在)。最高齢者は114歳の女性。女性の平均寿命は79.29歳、男性が86.05歳だった。

宮古島市

10月にアジア
医学会議

第4回アジア放射光生物学医学イメーシング会議が10月31日～11月2日まで宮古島市で開催される。放射光を

宮工が「アイデア」3位

県高校ロボット競技 11月の全国大会へ



ロボット競技大会で「じゃんぐり・ら」を操作する伊良部・池村ペア
=11日、沖縄市の美里工業高校体育館

【那覇】第16回県高校ロボット競技大会(主催・県工業教育研究会・県高校文化連盟)が11日、沖縄市の美里工業高校体育館で催され、アイデアロボット部門で、宮古工業高校の「じゃんぐり・ら」が3位に入賞し、11月に東京で開催される全国大会への出場権を獲得した。

【那覇】第16回県高校ロボット競技大会「足柄山の金太郎」競技部門のテーマは

技内容は、「熊にまたがった金太郎」をモチーフにした「熊ロボット」と「金太郎ロボット」の2台を製作し、2台の連携でコート内の障害物をクリアしながらポイントを重ねていくというもの。プラスチックハン

マー、硬式野球ボール、塩化ビニールパイプなどの目的物を台に乗せた数が得点となる。

「じゃんぐり・ら」は伊良部真義君(1年)と池村翔吾君(1年)が操作し、コート内の障害物を押しつけながら前進し、目的物を台に乗せて得点を重ねた。

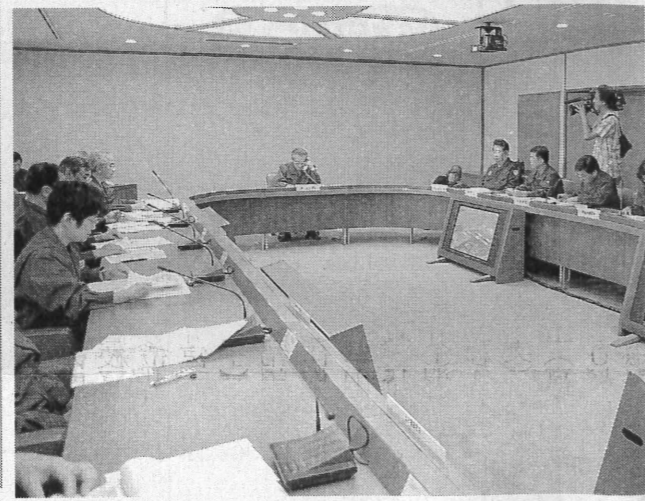
県庁に災害対策本部設置

全部局長参加、対応確認

【那覇】県総合防災訓練(主催・県、宮古島市、多良間村)が行われた11日、県庁6階特別会議室には仲里全輝副知事を本部長とする「県災害対策本部会議」が設置され、関係部局長ら全員が参加し、現地対策本部からの連絡を受けながら、被害状況の確認や各部署対

応などの訓練を行った。同日14時、県庁内では「宮古島近海を震源とする強い地震が発生した」とのアナウンスが流れ、防災服を身に着けた部局長らが同会議室に集まった。現地のからの電話連絡を受け、仲里副知事が「安里副知事を現地本部長とする対策本部を設置

する」と発令し、県庁内でも本格的な訓練が始まった。室内には5台の大型モニターが設置され、宮古島や多良間島の訓練映像が中継された。現地本部からの報告に対し、各部署が対応策を提示、通達するなどして連携状況を確認した。災害救助法適用などの



場面を想定して行われた訓練は15時50分、「対策本部廃止宣言」で終了した。



「隅木」の切り込み作業を行う棟りょうの西さん=11日、中休み近くの加工現場

新宮古神社

「千年木」お目見え

切り込み作業始まる

旧平良市民会館跡地に新しく造る宮古神社の木材切り込み(加工)が始まった。インドシナ半島のラオス産ヒノキで、樹齢の最高が約1200年、原木の最高直径が17.5センチ。建設敷地での組み立て開始は、11月上旬を目前にしている。

本殿や幣殿、拜殿など神社の建物となる社殿の工事を請け負っているのは、福岡の西建設。同社棟りょうの西武彦さんは「千年木で造られる神社は、国内でも珍しい。木は年輪の分だけ耐えるといわれる。宮古神社が千年保てば、国宝級の財産になる」と、遠

く先を見据えた。城辺線中休み近くの加工現場では、6人の宮工が熟練の技を駆使。切り込みや木材を接合するほぞやほぞ穴の加工、彫刻などに取り組む。柱や梁の組み上げは、きぎを一切使わずに行うという。

宮古神社の完成は、来年4月を予定している。